

8月11日以降のリスクレベルに係る対策について

本県の感染状況（8/4～8/10）の特徴

- 引き続き、県内において多くの新規感染者が確認されており、全国的にも感染は拡大傾向にある。
- クラスター関係の新規感染者は収束の傾向がみられるが、事業所内での感染例などクラスター化する可能性がある範囲での感染者も確認されている。
- 新規感染者のうち、21名（前週19名）が家庭内感染に関係している。
- 新規感染者のうち、医療従事者が5名、介護職員等が5名。
- 「接待を伴う飲食店」に関連する新規感染者も確認されているが、クラスターには至っていない。

週	新規感染者数 (確定日ベース)	事業所内感染関係			接待飲食店内関係		飲食店内感染	家庭内感染	その他リンク有	その他リンク無	PCR陽性率	病床	
		有明クラスター	山鹿クラスター	事業所内感染	接待飲食店クラスター	接待飲食店感染						確保病床	宿泊療養施設
8/4～8/10	106	30 (28.3%)	6 (5.7%)	9 (8.5%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (2.8%)	21 (19.8%)	17 (16.0%)	19 (17.9%)	5.5%	141人/400床 (稼働率35%)	1人/60室 (稼働率1.7%)
【参考】 7/28～8/3	133	51 (38.3%)	17 (12.8%)	0 (0.0%)	4 (3.0%)	4 (3.0%)	1 (0.8%)	19 (14.3%)	19 (14.3%)	18 (13.5%)	6.7%	132人/400床 (稼働率33%)	—

新型コロナウイルス感染症対策分科会において、本数値が50%を超える場合、外出自粛等の検討が必要とされている（他指標とも組み合わせて判断）。

対策の方針

- 大きなクラスターは、医療提供体制及び保健所業務への負荷が大きく、繰り返さないことが最重要。
⇒ クラスター以外の事業所内や施設内での感染が確認されており、クラスター化を防ぐための対策を強化。
- 県民一人一人が最大級の危機感と当事者意識を持ち、感染拡大防止策を徹底する必要がある。
⇒ 家庭内での感染が増加しており、家庭内にウイルスを持ち込まないための対策を強化。
- 県外からの移入や接待を伴う飲食店など、リスクの高い部分に焦点を絞ったメリハリの利いた対策が必要。
⇒ チェックリストやステッカーの活用により、特定の飲食店における感染防止対策を強化（熊本市中心部の接待を伴う飲食店約529店舗の実地確認を実施）。

【8月11日以降の対策】 ※リスクレベル4を継続し、次の対策を実施

総括

- ・ レベル4「特別警報」が継続され、引き続き最大限の警戒が必要なことから、クラスター発生防止等のため、改めて基本的感染防止対策、新しい生活様式の徹底を要請。

事業者

- ・ 企業及び事業所等に、感染防止対策の実践を要請。（※7/27に関係団体を通じて通知を发出済）
- ・ 高齢者施設、医療機関に、施設内感染や院内感染を防止する対策の徹底を改めて要請。（※7/29に通知を发出済）
- 新 事業所や施設内における感染防止対策の具体化及び実施の徹底を要請。
※感染者や有症状者等が発生した場合の、連絡体制や事業休止のルール等を定めておく。
※感染者等が発生した場合の、対策責任者や対応者等を定めておく。

特定
飲食店

- ・ 「特定の飲食店」※へ、ガイドライン等による感染防止対策を徹底するとともに、それが県民に分かるよう、別添のステッカー等を掲示することを改めて要請。（※7/30に通知を发出済）
⇒ 今後、特定の飲食店において感染が拡大した場合は、感染防止対策が徹底されていない店舗に対して休業要請を実施。
- 強 県民へ、ステッカーを掲示していないなど、感染防止対策のできていない「特定の飲食店」の利用自粛を要請。
※...「バーやクラブ等の接待を伴う飲食店」及び「その他の酒類の提供を行う飲食店」（令和2年7月17日付け内閣官房事務連絡）

県民

- ・ 県民へ、引き続き、県外への不要不急の外出自粛を要請。
- ・ 県民へ、県外在住の親戚等へお盆期間等の帰省を控えることを呼びかけるよう要請。
- 新 県民へ、親族行事において、多人数（10人以上）での会食を控え、発熱やかぜの症状がある場合は参加しないことを要請。
- ・ 高齢者、基礎疾患を有する方及びその家族に、外出の際は感染防止対策を特に徹底するよう要請。
- 新 帰宅直後の手洗いや入浴、発熱等の症状がある同居者と部屋を分けるなど、家庭内における感染防止対策の徹底を要請。
- ・ 感染防止対策の徹底ができない催事の自粛を要請。また、延期できる催事は極力延期を要請。

対策については、感染状況に応じて追加の要請等を行う。

熊本県・熊本市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議 座長コメント
(8月11日現在)

熊本県内では、先週(8/4～8/10)、新規感染者は106例(うち感染源が特定できないリンク無し感染者19名)が確認された。先週の133件よりは減少しているが、100件を超える多数の感染者の確認が継続している。

県内のクラスターについては、概ね調査が終了し、これらに関連する新規感染者は減少傾向にある。一方、リンク無し感染者が増加傾向にあるほか、夜の繁華街に起因する感染も散見されている。また、家庭内感染や事業所内感染などにより、医療従事者や子どもなど、様々な属性や年齢層において感染者が確認されており、クラスター以外の感染拡大の傾向が見られる。

積極的疫学調査によるクラスター対策、夜の飲食店での感染予防対策等にも取り組んでいるものの、新規感染者の急増により、確保されている病床の利用率が速いペースで高まってきており、熊本県・熊本市ともに「レベル4 特別警報」を維持することが妥当である。

これ以上の感染拡大を防ぐためには、引き続きメリハリの利いた接触機会の低減を図り、感染拡大のリスクが高い部分について、確実に対応していくことが重要である。

県民・市民及び事業者の皆様は、密集・密接・密閉の「3つの密」の回避を一層徹底し、「新しい生活様式」の実践に一層取り組んでいただきたい。特に、お盆を迎えるにあたり、県外在住の家族や親族等に対して、県境をまたぐ移動について控えるよう呼びかけるなど、慎重な判断をお願いしたい。

全県を挙げて危機感を共有し、県民一人一人がこれらの行動を迅速かつ徹底して行うことが求められている。